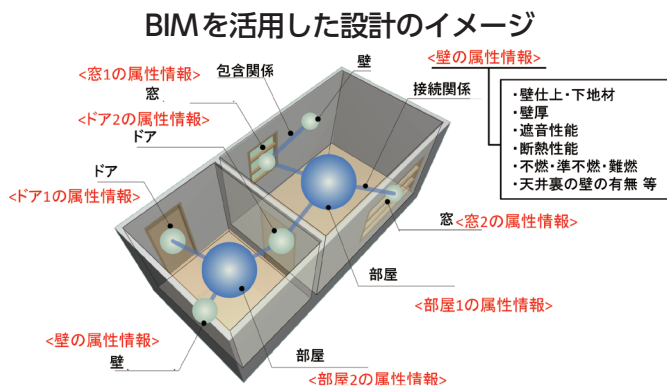


TOPIC 1 | BIMパーツ作成へ 窓から検討開始

(一社)日本建材・住宅設備産業協会(建産協)は、国交省が推進する建築BIM推進会議からの要請を受け、BIM活用のプロセスにおける部品メーカーの役割や、適切なかわり方を提案していくため、建産協を事務局とする建築BIM検討会議(委員長:清家剛 東京大学大学院教授)を立ち上げた。

まずは「窓」ワーキンググループ(WG)を設置。構造躯体と密接にかかわる「窓」から検討を開始した。旭ファイバーグラス、AGC、三協立山、JSP、大建工業、TOTO、パナソニックLS社、日本板硝子、LIXIL、YKK AP、吉野石膏が参加する。「窓」WGでは、窓のBIMパーツとして、ワークフローの基本設計、実施設計、施工のそれぞれの段階で、どの程度の属性データが必要なのかを整理する。また、標準的な建具の納まりを整理した「納まり標準図(仮称)」の策定に取り組む。

さらに、目的に沿ったBIMパーツを提供するため、部品



メーカー版のBIM実行計画書のあり方の検討を進める。スペックシートを用意し、カタログ製品のデータを、設計者と施工者間でやり取りする際の責任範囲を明確化する。また、カスタムメイド商品を提供する際の、BIMパーツ作成・修正範囲も明確化し、BIM実行計画書に明記する。

建産協では、BIM普及に向けて「窓」以外の業種、部品についても今後、具体的な対処方針の検討を進める考えだ。

TOPIC 2 | 業界初、完全サイディングプレカットを実現するソフトが登場

業界初の完全サイディングプレカットを実現するソフトが登場した。

大型パネル事業を推進するウッドステーションが、完全サイディングプレカットソフト「WSSiding」を開発。木材のプレカットCADデータを「WSSiding」で処理し、現場採寸なしでサイディングの加工図・CAMデータを出力できる仕組みを構築した。ウッドステーションがデータ作成を請け負い、住宅事業者を始め、サイディングメーカー、サイディング加工機メーカー、サイディング施工事業者、流通事業者などに提供する。

現在、サイディングの施工は、職人が現場で採寸・割付してサイディングをカットして納めることが主流となっている。一方で、職人不足からサイディングプレカットへの

注目度が増している。しかし、一般的なサイディングプレカットでは、意匠図から構造を正確に把握することが難しく、また、サッシの取り付けは現場合わせであるため、現場採寸が必要になる。

「WSSiding」による完全サイディングプレカットは、プレカットCADを高精度に処理することで現場採寸なしで、開口部などの位置も含めて、建物の形状に合わせて自動でサイディングを割り付ける機能を付与。また、サイディングを貼り分ける機能のほか、歩留まりを最適化する機能、現場施工のニーズに合わせて梱包・施工順を最適化する機能なども搭載する。現場での騒音、粉塵、カットロス、産廃処理の解消に寄与し、職人依存からの脱却、商流、納期管理の合理化にもつながる。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online Premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>